

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4470102296		
法人名	社会福祉法人 永生会		
事業所名	グループホーム のぞみ		
所在地	大分市大字常行266番地1		
自己評価作成日	平成28年11月1日	評価結果市町村受理日	平成29年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成28年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療・訪問看護との連携を計り、利用者の日々の体調変化への相談、対応ができ、利用者、家族に安心して過ごせている。
 入所者の高齢化に伴い、ターミナルケアへの取り組みをはじめ、その人がその人らしく暮らせる様取り組んでいる。
 保育園との交流や、昔ながらの季節行事を通じ家庭的な雰囲気の中で日々の生活を送っていただけるようサポートを心がけています。

・一人ひとりの個性を大切にしながら、本人の思いに沿った支援に心がけている。
 ・医療機関との連携が良く、重度化した場合も本人・家族と相談の上、納得の行く支援が受けられ安心して過ごすことができる。
 ・利用者と一緒に食事作りをし、四季折々の行事が行われ充実した毎日が送られるように取り組まれている。
 ・災害時は併設の施設と連携を取り避難できるよう訓練しており、地域の人々の避難場所に提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人の人生を大切に、その人らしく暮らせる様支援します。	その人らしく暮らせるよう理念に沿った支援がなされている。これまでの暮らしを変えないよう、一日のスケジュールを利用者の行動習慣などの情報を職員全員が共有し、ケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣の保育園児との交流、地域行事と祭り、盆踊り等への参加をしている。	運営推進会議等で地域の方から行事などの情報を得て、神社の祭りや公民館行事等に参加している。隣の保育園とは常に交流が持てている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、みのり祭など、地域の方へと報告、説明しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議の開催、活動報告、取り組み内容を報告。活動などへの率直な意見交換を行っている。市職員の方の参加によって意見やアドバイスをいただいている。	出席者の防災士より避難方法の助言を頂いて実行に移したり、避難訓練の様子を運営推進会議の出席者に見てもらい感想を聞いている。市の職員からもアドバイスをもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	避難訓練の際、訓練内容、方法を消防署へ相談、指導を仰いだ。運営推進会議にて防災士よりアドバイスいただいている。	虐待や感染症について助言を得ている。骨折事例について相談し、的確なアドバイスをもらっている。事務上諸手続きの仕方の助言をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通し職員の周知徹底を行っている。	センサーやチャイムなどになるべく頼ることなく常に職員間で注意し合いながら本人主体を念頭に見守りをしている。全体会議やミーティングで拘束をしないケアについて研修を行い、法人全体で情報交換をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し理解を深め、言葉づかい、対応について注意している。		

事業者名:グループホームのぞみ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修に参加し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章、口頭等で説明し家族の同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	福祉サービス相談員(オンブズマン制度)を設けている。	福祉サービス相談員が年4回本人・家族の意見等を聞いて、年1回法人本部に報告をしている。家族会や面会の時にも直接声を聴いている。カットに連れて行けないので訪問理美容があると良い等の要望を受けて検討を始めた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	質の向上を心がける様に、職員の意見を聞いて反映させるように努めている。	朝礼や職員会議の時意見を聞いている。大きな問題は部門長会議にも提案している。個別でも応じている。日々の業務において不便に感じたこと、例えば重たいものの買い物は配達にして欲しい等、改良に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度において、個人目標の自己評価をすることで、意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護力向上を図る為に、研修会への参加に取り組むように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加、意見交換を行いサービス向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前後の環境変化に伴う不安軽減に努め、笑顔の声掛けにてコミュニケーションを多く持ち、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時や面会など家族から要望等を聞き、様子を面会時や電話で報告をし、不安軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望をふまえた上で、思いに添った支援に繋げるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のリズムを大切にしながら、他利用者との会話が楽しく過ごしていただけるような環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を大切にし、必要に応じ協力を得ながら支えていくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容院や、デイケア利用への継続にて、安心して生活できるように努めている。	家族・友人が良く訪問している。馴染みの美容院に行ったり入所以前から通っていたデイケアを利用し続けるなど、これまでのつながりを大切に継続した支援がなされている。施設の様子をブログで発信し、口コミに感想を頂いたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	季節や行事、歌などを通じ、会話が弾み、利用者同士が笑顔で過ごせる様に努めている。		

事業者名：グループホームのぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、相談など必要に応じ対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を把握し、日常の生活や会話の中での希望・意向をくみ取り、どのように暮らしに活かしていけるか考え努めている。	日々の生活や会話の中で本人・家族の希望をくみ取り、気になる時は職員からアプローチし思いに沿っている。ケアプラン作成に思いや意向を反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時アセスメントにて、ご本人・ご家族・サービス担当者から話を聞き、日常生活上で不明な点があればご家族に尋ね、出来るだけこれまでの暮らしが続けられるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを作成し、1人ひとりの1日の過ごし方心身状態の見直しを行い把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望を伺い、必要な関係者を交えてモニタリング、アセスメントを行って作成している。状態の変化があった時は、その都度ケアプランの見直しを行い、現状に応じたケアプランを作成している。	アセスメント表を基に職員間でカンファレンスを開き、本人・家族の意見を反映しながらケアプランを作成している。状態が変化した場合、医療機関とも相談している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合記録シートにて、1人ひとりの状態がすぐ分かるように記録をしている。また、気づきなどもその都度記録し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業者の利用や施設内外でのイベントへの参加など家族にも協力を依頼し、季節を感じたり気分転換ができたりと一緒に楽しめるように支援を行っている。		

事業者名:グループホームのぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣への買い物、保育園児との交流や、地域行事への参加に、地域の方や係りつけ医の協力を得ながら、生活が継続できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族への係りつけ医になっている医療関係との関係を築き情報共有を図っている。	入所以前より利用していたデイケアやかかりつけ医は希望すればそのまま継続できている。家族の要望により自費ヘルパーと契約し受診同行してもらっている。ヘルパーより診察内容を聞き、家族に結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護があり、健康管理を行っている。緊急時には相談アドバイスをもらえる関係づくりが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療関係へ情報提供し安心して治療ができ、早期退院のできるよう情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、訪看との連携を図り、家族の意向を確認し終末期へ取り組んでいる。	入所時 本人・家族と重度化した場合の希望を聞き、施設としてできる事を説明している。本人に負担が掛からないように看取りを含め本人・家族と相談している。訪問医療や訪問看護と連携し、利用者本位に支援がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変、事故発生に備え、研修に参加し緊急時、医療、看護との連携体制を取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回高田清流苑合同での避難訓練を行い、毎月単独で避難訓練を利用者と共に実施している。	夜間・昼間想定避難訓練を交互に毎月行っている。消防署立ち合いのもと避難訓練をしている。法人全体で災害プロジェクトを立ち上げ、災害発生時から24時間以内に何をするかという取り組みを始めている。2階倉庫に備蓄がある。	

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的な研修を行い、職員間で注意しあうようにしている。	プライバシーや言葉遣いなど定期的に研修を行い、人格否定にならないよう心掛けて支援にあたっている。さみしい思いをしている人には声掛けするなど個々に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしい生活が出来るよう、支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを大切にして、その人らしい生活が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時やホールへと来られる祭、衣類や髪を整えるなど気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関わる味見であったり、おやつ作りや、下ごしらえを一緒に行っている。	平日は朝・夕食、休日は3食施設で作っている。利用者と一緒に皮むきや下ごしらえなどをしている。だんごのこね方や野菜の切り方等教えてもらいながら楽しく料理を一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあった飲み物、時間を把握し、水分摂取へと努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、見守り、介助等、一人一人の状態に応じ行っている。毎日義歯の消毒を夜間行っている。		

事業者名:グループホームのぞみ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、その人に合った介助を行い、快適に過ごせるように支援している。	できるだけトイレで排泄するように、様子を見ながらトイレ誘導を行っている。オムツは使用せず、パッド使用で其々のパターンに沿って自立に向けての支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因、影響を理解し水分摂取、運動、腹部マッサージ等を行い排便を促している。排便のリズムを把握できるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の状態を把握し、希望に合わせ気持ち良く入浴出来よう心がけている。	清潔保持に努め、ゆっくり1対1で対話しながら入浴介助が行われている。滑り止めマットを使用するなど安全に配慮している。入浴を嫌がる時は無理じいせず、タイミングを見て行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を把握し、日中の活動参加を促し、夜間気持ち良く安心して眠れるように支援している。日中は状況により居室で休んでいただくこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を活用し、内服変更時には記録に残し様子観察する。状態変化がある場合、主治医、訪問看護に報告し指示をいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の飾りや壁面作品作りの取り組みにより、楽しみながら、残存機能が活かせる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	保育園やびわのすとの交流を行っている。屋上での野菜菜園を楽しみにしている。ヘルパー対応にて外出支援をしている。	萬弘寺・菊花展・花見などに出かけている。隣の保育園児が訪問してくれる。またこちらから出かけ、園庭で開かれるおゆうぎ会を見に行ったりしている。施設屋上にある菜園で、豆を取ったり花摘みをしたりして外気に触れて気分転換をはかっている。	

事業者名:グループホームのぞみ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出した時に、自分の好きな物や必要な物を財布から出し、買うことが出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友達とのやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日めくりカレンダーの設置や、季節の飾り物を一緒に作る等、季節感を感じていただけるようにしている。観葉植物を置き気持ちよく過ごせるように、工夫している。	ホールにひな飾りやクリスマスツリーなど季節感のある飾りつけをしている。利用者が作った物や書画などが飾られている。畳やソファが置かれ、ゆっくりくつろげるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	随所にソファや椅子を配置し、気の合った利用者同士が、過ごせるような空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、写真、テレビを持ち込まれて過ごしていただいている。	部屋の窓からは隣の保育園が見渡せ園児の遊ぶ様子や声を見聞きする事が出来る。これまで使い慣れたタンスや机・ソファ等を持参し落ち着いた生活が送られている。利用者の動きを考えて家具などの配置をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入り口に表札を付け、自分の居室が分かりやすいようにしている。		